

1 次の文章を読み、設問に答えなさい。

パンダが日本に初めてやって来たのは1972年10月28日でした。2022年はその50周年の節目の年でした。1958年の多摩動物公園の設立時に東京都は初めてパンダの展示を試み、当時の通商産業大臣が中華人民共和国政府と交渉しましたが実現しませんでした。その後も様々な方法で交渉したようですが中華人民共和国政府の態度は変わりませんでした。1970年に上野動物園から北京動物園に対し(パンダとの交換を想定して)コウノトリを提供すると申し出たときには返事も来なかったといえます。ところが、1970年以前に中華人民共和国政府はソビエト連邦と朝鮮民主主義人民共和国にはすでにパンダを贈っていました。^①

中国は複雑な歴史を抱えています。中華民国は1930年代から40年代にかけての日本との戦争には勝利しましたが、1949年に新しく成立した中華人民共和国に押し出される形で台湾に拠点を移し、現在に至ります。もともと日本はアメリカ合衆国(米国)とともに中華民国(台湾)だけを「中国の政府」として認め、中華人民共和国を「中国の政府」として認めていませんでした。他方、ソビエト連邦と朝鮮民主主義人民共和国は、中華人民共和国だけを「中国の政府」として直ちに認めていました。

ところが、1972年2月、米国のニクソン大統領が突然に北京を訪問して、下記のことを中華人民共和国との共同声明の中で発表し、世界中を驚かせました。

[資料A] アメリカ合衆国政府と中華人民共和国政府の共同声明(一部)

米国は、台湾海峡の両側のすべての中国人が、中国はただ一つであり、台湾は中国の一部分であると主張していることを認識している。米国政府は、この立場に異論をとめない。

データベース「世界と日本」(代表：田中明彦)日本政治・国際関係データベース
政策研究大学院大学・東京大学東洋文化研究所

大統領と会談した中華人民共和国首相はパンダを米国に贈ると約束しました。

このころ、日本の総理大臣(首相)は中華民国との外交関係を引き続き重視する方針でしたが、7月に新たに田中角栄氏が首相となりました。この時、日本の国会議員の中には中華民国との外交関係を重視する人が少なくなかったにも関わら^②

ず、田中首相は9月に北京を訪問し、下記のことを中華人民共和国との共同声明の中で発表しました。[図1]

[資料B] 日本国政府と中華人民共和国政府の共同声明(一部)

日本国政府は、中華人民共和国政府が中国の唯一の合法政府であることを承認する。

中華人民共和国政府は、台湾が中華人民共和国の領土の不可分の一部であることを重ねて表明する。日本国政府は、この中華人民共和国政府の立場を十分理解し、尊重…(中略)…する。

外務省ホームページ

田中首相と会談した中華人民共和国首相はパンダを日本に贈ると約束しました。

大げさに言えばこの1972年というのはパンダにとって激動の1年でしたが、それは国際政治の激動と強い関係を持っていたのです。^③

その50年後、2022年8月2日から3日に米国のペロシ下院議長が台湾を訪問して(台湾の大統領に相当する)蔡英文総統らと会見しました。中華人民共和国政府は米国のこの行動に激しく反応し、1週間にわたって台湾を取り囲んで軍事訓練を行うなどの強い反発を示しました。^④

[資料C] 2022年8月1日 中華人民共和国外務省の記者会見(一部)

「ペロシ氏の台湾訪問は中国内政への干渉であり、中米関係を著しく損なう深刻な結果を招く」

「中国軍は決して座視することなく、必ず断固たる対抗措置を取る」

『朝日新聞』朝刊2022年8月2日9面

これまでも習近平国家主席は2019年1月の演説で「『一つの中国』原則を堅持し、台湾独立には絶対反対。武力使用の選択肢も放棄しない」(『朝日新聞』朝刊2019年1月3日3面)と明言するなど、たびたび台湾への武力行使について述べています。これに対し米国のバイデン大統領は2022年5月23日の記者会見で「米国は軍事的に台湾防衛に関与する意思があるのか」と問われ、「イエス、それが

我々の誓約だ」(『週刊朝日』2022年6月10日148頁)と明言しています。

日本では、^⑤ロシアによる^⑥ウクライナへの戦争を目の当たりにしている中での中華人民共和国の軍事訓練に大きな不安を覚え、日本政府は中華人民共和国政府に対して軍事訓練の中止を要求しました。この時^⑦カンボジアで開催されていた東南アジア諸国連合の外相会議には日本と中華人民共和国からも外務大臣が出席しており、^⑧日中国交正常化50周年を目前に控えるこの機会に日中外相会談が予定されていましたが、中華人民共和国政府から断られました。[図2]

[資料C]で中華人民共和国政府は「台湾は中国の国内の問題だ」という態度ですが、仮に中華人民共和国が台湾に軍事行動をとれば中華人民共和国と米国との対決につながりかねず、世界をゆるがす「^⑨国際問題」とならざるをえません。

50年前、パンダは国際社会の平和と友好のシンボルでしたが、今はそのころに比べて国際社会の安全と平和への不安がむしろ増しているように感じます。

(参考資料：家永真幸『パンダ外交』メディアファクトリー新書023, 2011年, 張予思『革命とパンダ』イーストプレス, 2015年 一部の表現を読みやすくするために直しています。)

[図1] 日中共同声明調印後、乾杯する田中首相と中国首相



(『朝日新聞』夕刊1972年9月29日11面)

[図2] 日中外相会談が中止に



(『朝日新聞』朝刊2022年8月5日2面)

問1 下線部①について、中華人民共和国政府がこの2カ国に真っ先にパンダを贈った理由を本文を参考にして答えなさい。

問2 下線部②について、少なくない国会議員が反対する中でもこのような政策変更が実行できたことと最も関係の深い日本国憲法の条文の記号を一つ選びなさい。

ア 第六条 天皇は、国会の指名に基いて、内閣総理大臣を任命する。(以下略)

イ 第四一条 国会は、国権の最高機関であつて、国の唯一の立法機関である。

ウ 第六七条 内閣総理大臣は、国会議員の中から国会の議決で、これを指名する。(以下略)

エ 第七三条 内閣は、他の一般行政事務の外、左の事務を行ふ。

一 法律を誠実に執行し、国務を総理すること。

二 外交関係を処理すること。

(以下略)

問3 下線部③について、日本と米国にもパンダが来ることになった理由として、中華人民共和国政府が重視した日米両国の外交政策の変更点を二つ答えなさい。

問4 下線部④と⑧のような中華人民共和国政府の反発の背景としてあてはまる説明文の記号を二つ選びなさい。

ア 米国下院議長の行動は「中国はただ一つ」という重要原則を否定する行為なので、断じて許せない。

イ 米国下院議長が台湾を訪問して台湾総統と会談するなら同時に北京も訪問して中華人民共和国国家主席と会談するべきなのに来なかった。バランスがとれておらず不公平で、断じて認められない。

ウ 中国軍が台湾周辺で訓練するのは完全に自国内の行動であり、日本から何か言われる筋合いはない。強く抗議する。

エ 50年前の中国は貧しく、遅れた国だったが、今は日本を上回る経済大国になったので、今さら日本の外務大臣と会う必要性はない。

オ 日本と米国にパンダを贈って50年も経ったのに、未だにパンダと同等の価値のある動物が中国に贈られていない。中華人民共和国人民および政府の友好の気持ちが無視されており、強く抗議する。

問5 下線部⑤～⑦の国を示す記号を地図から選びなさい。



問 6 中華人民共和国の習近平国家主席と米国のバイデン大統領は、台湾についてどのような行動をとる用意があると互いに言い合っていますか。本文と資料を参考に答えなさい。

問 7 下線部⑨について、日本国憲法では外国との間で争いが生じたときに日本政府がとる行動に関してどのように定めていますか。